

赤坂布台ヒルズ

赤坂布台ヒルズ 森JPタワー
赤坂布台ヒルズ ガーデンプラザA・B・D

港区

JPタワー

設計・監理／森ビル一級建築士事務所・日本設計

施工／清水建設

赤坂布台ヒルズ ガーデンプラザA・B・D

設計・監理／森ビル一級建築士事務所・山下設計

施工／大林組





エントランスロビー

建築計画

森JPタワーは麻布台ヒルズ全体の南側に位置し、旧麻布郵便局跡地に建つ地上64階、高さ約330m、延床約461,800㎡の超高層複合タワーである。建物を複合化・高層化することで地上に約6,000㎡の中央広場を含む、約24,000㎡の大規模な緑地を創出し、緑豊かなコンパクトシティを実現している。主な施設構成は、商業フロア（地下1～地上4階）、外務省外交史料館（5階）、予防医療センター（5～6階）、オフィスフロア（7～52階）、住宅フロア（54～64階）、BST（東側低層部地下1～地上7階）となっている。超大規模で複雑な用途構成に対し、各々が高いグレードのデザインと機能を確保しつつ、敷地の高低差を活かして機能的・デザイン的にシームレスにつなげることで、相互に補完し合った高次元な複合施設となることを意図している。車の主動線は敷地南側の外苑東通り1階レベルから、人の主動線は東京メトロ日比谷線神谷町駅・六本木一丁目駅のある中央広場側の地下1階レベルからと、2方向かつ2フロアで構成された主動線の計画とし、広場に面した明るく開放感のある3層吹抜のエントランスロビーがそれらを結びつける結節空間とし

て機能している。

オフィスフロアにアクセスするエレベーターは、六本木ヒルズでも実績のあるダブルデッキエレベーターを採用し、1階と地下1階から乗降が可能で、基準階への輸送能力や有効率の向上にも寄与している。オフィスフロアは5バンク構成で、1～3バンクは地上から直接アクセス、4～5バンクはダブルデッキシャトルエレベーターで33・34階のスカイロビーを経由し、各々のバンクに乗り継ぐ計画としている。

エントランスロビーのインテリアデザインは、ヤブ・プッシュェルバーグが担当。南北をつなぐ空間の壁面には、視覚的に連続する中央広場と調和し自然の美しさを表現する、アート作品のような123万粒の雲や水のような光の

反射が美しいモザイクタイルが採用された。壁面全体に「さざ波」をイメージした模様を入れることで、静謐さの中に奥行と深みを感じさせるデザインとしている。また、エントランスロビーを特徴づけるデザインとして、吹抜空間に面したスパンドレル部にリボンモチーフにした3次元曲面のGRGパネルを採用した。北側の吹抜からタワープラザまでシームレスにつながるリボンのデザインは、オフィスロビーと商業エントランスにおいて、街のコンセプト「Modern Urban Village」 「Green & Wellness」を体現する中央広場のランドスケープとも調和しつつ、品格のある華やかさと賑わいを演出している。

（渡辺昌久／森ビル、加藤弘治／日本設計）



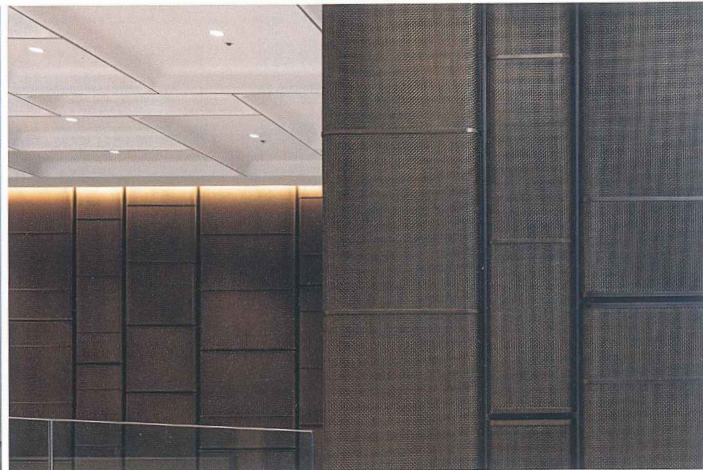
エントランスロビー



エントランスロビー壁面のモザイクタイル



コッファ-天井が印象的な商業空間 型押しされたような形状の立体パネルを格天井に見立てた。右側に地下1階まで掘り下げたコートヤードが見える



左/地下鉄との接続部 右上/メタルメッシュ壁 右下/ガーデンプラザAエレベーター パビリオン形状をしたガラスのシャフト